

令和元年8月14日

守谷市議会議長 梅木 伸治 様

陳情者

住所 茨城県守谷市松ヶ丘六丁目19番地13

氏名 文学碑建立実行委員会

実行委員長 渡邊 雄一

文学碑建立に関する陳情

【陳情の趣旨】

守谷の将門伝説の発端は古く『将門記』に「王城は下総国の亭南に建つべし」とあり、『今昔物語集』・『平家物語』・『神皇王統記』・『太平記』などほとんどの書籍にも「下総国相馬郡に都を建て」とあります。これらの著述と、守谷城は平将門公直系の相馬氏の居城だったことから、相馬内裏は守谷であると比定されておりました。

江戸時代に将門人気が高まり、浄瑠璃・歌舞伎・錦絵などの作品に守谷城を想定した「相馬古内裏」「将門城」が数多く登場してきました。なかでも常磐津「忍夜恋曲者」（通常「将門」）は現代でも歌舞伎で上演されております。

当時、多くの文人たちが将門城としての守谷城址にロマンを求めて守谷を訪れてきたことは史実であり、彼らが残した作品には素晴らしいものがあります。永らく埋もれていた守谷城址を詠んだ俳句・和歌を選び、作者の真筆かそれに近い書を集め、これを石碑に刻み後世に伝えることは意義深く、また貴重な史跡になり得るものです。

【陳情の理由】

守谷が豊かな歴史と文化を有していることに関心と誇りをもち、忘れがちな郷土愛を育むことの一助にもなる、これらの遺産を市民に広く永く伝えたいと思います。

つきましては別紙「文学碑建立の参考資料」を基にご検討いただき、江戸時代に守谷を訪れた文人たちの文学碑の建立を熱望するものです。

以上のおり陳情いたします。